

お知らせ

東レ科学技術賞および研究助成候補者募集

上記について東レ科学振興会より本会あて推薦依頼が来ています。希望者は**10月25日**までに、学会庶務理事まで御連絡下さい。募集の要項はつぎのとおりです。

科学技術賞……(1) 学術上の業績が顕著なもの (2) 学術上重要な発見をしたもの (3) 重要な発明をして、その効果が大きいもの (4) 技術上重要な問題を解決して技術界への貢献が大きいもの、に対し金メダルと副賞300万円。

研究助成金……科学技術の基礎的な研究に従事し、その研究の成果が科学技術の進歩・発展に貢献するところが大きいと考えられる研究を行なっている研究者、またはそのグループに対し総額1億円前後、1件1,000万円程度。但し、とくに重要と認められる研究については、3,000万円程度まで助成が考慮されます。

贈呈期日は両方とも昭和58年3月の予定。

雑報

Catalogue of Cometary Orbits

上記の彗星軌道のカタログは、第1版が1972年に発行され、1979年の第3版までが発行されていて、多くの彗星研究者に重宝されていた。その第4版がこのたび発行された。記載されている彗星の出現数は、1972年版では924であるのに比べて、1982年版では1109と当然のことながら増加している。最も古い出現としては-239年のハレー彗星が記載され、1982年5月までに出現した彗星が、1980年までは近日点通過の順にローマ数字記号により、また1981年以降は発見・検出の順でそれぞれ記載されている。1109出現の内容を見ると彗星数は710個、その内の121個は周期200年以下の短周期彗星、残りはいわゆる長周期彗星である。短周期彗星の内78個は2回以上の出現で、残りは1回だけの出現である。一方、長周期彗星については、316個が放物線、169個が楕円、104個が双曲線の軌道として記載されている。この第4版が発行されるまでに出現した彗星についての統計資料もあり、それによると、近日点距離(q)の大きいものはSchuster (1975 II) 彗星の6.881 AU, van den Bergh (1974 XII) 彗星の6.019 AUがあり、 q の小さいものでは1979年8月30日にアメリカの人工衛星P-78-1

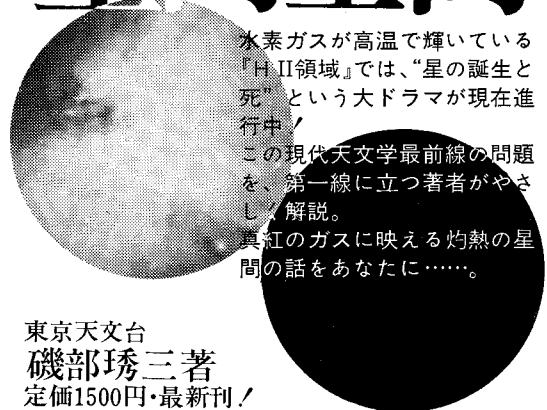
わが国唯一の天体観測雑誌

天文ガイド

定価380円(〒70円) '82-10月号・9月5日発売!

10月号のおもな内容

- ★ベルギーのアマチュア、ダーニー・カルドゥーン氏のすばらしい天体写真が届きました。41cmの反射赤道儀を駆使して大活躍をしているヨーロッパのアマチュアのように、オランダ在住の難波さんが紹介します。
- ★人工衛星が打ち上げられてから25年、地球の形をきめる測地学の立場からその意義を書いてもらいました。東京天文台の長古在由秀さんの解説です。
- ★好評のレンズテスト。最終回はタムロンSP90ミリとペンタックスのMスター300ミリ、西条善弘さんから。
- ★観測ガイドは秋の最大の流星群オリオンの観測法、ほかにマイコン教室、彗星・流星群ガイドなどを満載!

灼熱の
星間空間

水素ガスが高温で輝いている「H II領域」では、「星の誕生と死」という大ドラマが現在進行中!

この現代天文学最前線の問題を、第一線に立つ著者がやさしく解説。

真紅のガスに映える灼熱の星間の話をおあなたに……。

東京天文台
磯部琇三著
定価1500円・最新刊!

誠文堂新光社 〒101 東京都千代田区神田錦町1-5
 振替東京7-6294 電話03(292)1221